

広島大学生の交通安全意識に関する研究

株式会社パスコ 正会員 ○田中勝哉
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 杉恵頼寧
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 大東延幸

1. 研究の背景と目的

ここ最近の広島大学生の交通事故は新聞でも報じられていたように死亡事故が多発し、これ以上悲惨な交通事故の犠牲者を増やさぬよう早急な対策が必要とされている。そのため本研究では、普段から通学等で自動車を利用している(通常,自動車を利用する)学生の交通安全意識に関するアンケート調査を行い、学生ドライバーの安全意識の問題点を把握し、学生の交通事故対策として、今後の安全講習会等の学内の交通安全対策を検討する。さらに、キャンパス及びその周辺道路はその容量を超えており、キャンパス内は車が溢れている。このような状態では重大事故が起きても不思議ではないため、キャンパス内及び周辺道路の危険箇所を示した「東広島キャンパス危険マップ」を作成する。

2. 調査概要

(1) 調査の実施

調査は東広島キャンパスの全学部2,3,4年生を中心とした、普段から通学等で自動車を利用する(通常,自動車を利用する)学生を対象として行った。ただし、サンプルをランダムに抽出したため通常,自動車を利用しない学生には調査票の1部のみ回答してもらった。

調査の実施期間は10月で、どの学部からもある程度のサンプル数が得られるように調査票を配布し、工学部165人、生物生産学部109人、教育学部148人、学校教育学部72人、法学部62人、経済学部90人、文学部41人、理学部60人、総合科学部105人の合計845人の学生から回答を得た。その中で調査の対象となる通常,自動車を利用する学生は、ほぼ半数の426人であった。

(2) 調査票の構成

調査票は、1.所属学部、学年、性別、住所、運転歴等の個人属性を尋ねる項目 2.安全講習会等の学内の交通安全の取組みの評価に関する質問項目

3.学生の交通安全の心がけに対する自己評価に関する質問項目 4.下見街道を運転するときの様子について尋ねる項目 5.東広島キャンパスや外周道路の危険な場所を尋ねる項目と大きく5つに分かれている。

3. 集計結果

(1) 広島大学生の交通安全の心がけに関する評価

図1は1～7の交通安全の観点からみた基本的な順守事項の心がけのどちらでもないを0とした5段階評価の平均を示したものである。図から明らかなように、1のシートベルトは大半の学生が常に心がけており、3の飲酒運転や5の駐車違反の項目も多く of 学生が心がけているといえる。また、多くの学生が夜型の生活スタイルであるため、4の強い雨の日や深夜は運転しないことを心がける学生が少ない。

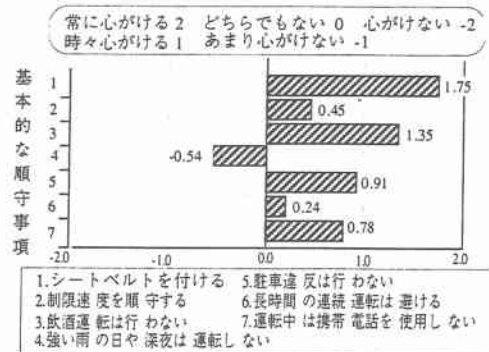


図1 安全運転の心がけに関する評価

さらに図2から、事故を起こしたことがある学生

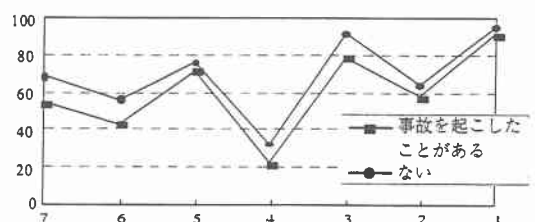
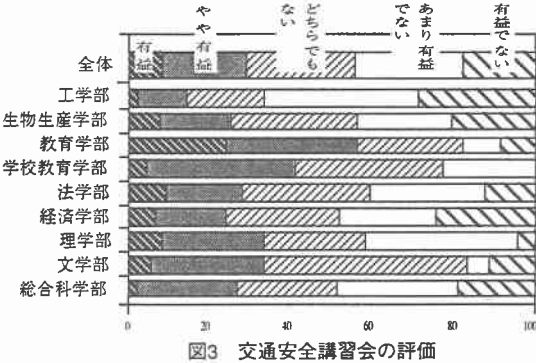


図2 事故歴別でみた「心がける」学生の割合

は、起こしたことの無い学生に比べこの1～7の項目に対して心掛けている人の割合が低いことがわかり、このことからこれらの項目に対する心がけが低いことが事故を起こす確率を高くしているといえる。

(2) 駐車証申請時の安全講習会の評価

図3から今年(平成9年)4月の各学部で行われた交通安全講習会の有益性については、教育学部で行われた安全講習会では受講した学生の24%が有益であると回答しているが、他の学部で行われた安全講習会に関しては有益であると回答した学生が少ないことがわかる。特に工学部、総合科学部においてはこのことが顕著にみられる。



次に、安全講習会をさらに充実させる対策としてどの学部の安全講習会においても少人数で行うや外部の専門家を呼ぶことが有効な対策であると回答した学生が多い(図4参照)。

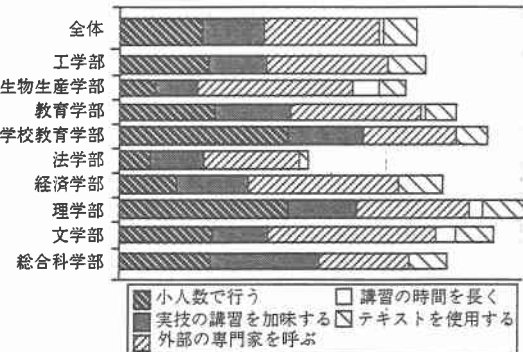


図4 交通安全講習会を充実させるために望ましい対策

4. 学生の総合的な安全意識に影響を及ぼす要因分析

学生が総合的に判断して安全運転に心がけているかを決定するのに、図1の1～7の基本的な順守事項

の心がけがどのように影響を及ぼしているかを把握するため、数量化2類で分析を行った。安全運転に心がけている人は70.4%，心掛けていない人は11.6%で、その分析結果を表1に示す。2の制限速度、3の飲酒運転、7の運転中の携帯電話の項目に対する心がけが大きな影響を与えているといえる。逆に、4の強い雨の日や深夜の運転、5の駐車違反、6の長時間の連続運転の項目の心がけが日頃の安全運転の認識に及ぼす影響は小さく、学生の多くがこれらの項目を心がけなくても安全運転に支障をきたさないと考えているという学生の有する危険性の認識が低いことが明らかになった。

表1 学生の総合的な安全意識に影響を及ぼす要因分析

アイテム	カテゴリ	サンプル数	偏相関係数	スコア
駐車証の有無	持っている	327	0.06	思わない 思う
	持っていない	62		
	不明	34		
運転歴	半年以内	34	0.161	
	半年～1年未満	79		
	1年～2年未満	136		
	2年～3年未満	91		
	3年以上	49		
事故歴	あり	226	0.063	
	なし	163		
1	常に心がける	341	0.066	
	時々心がける	21		
	心遣いがない	7		
2	常に心がける	49	0.228	
	時々心がける	188		
	心遣いがない	59		
3	常に心がける	238	0.205	
	時々心がける	91		
	心遣いがない	31		
4	常に心がける	29	0.142	
	時々心がける	93		
	心遣いがない	60		
5	常に心がける	226	0.168	
	時々心がける	132		
	心遣いがない	154		
6	常に心がける	49	0.091	
	時々心がける	54		
	心遣いがない	63		
7	常に心がける	128	0.229	
	時々心がける	76		
	心遣いがない	122		
外的基準	常に心がける	173	0.229	
	時々心がける	57		
	心遣いがない	84		
外的基準	思う	105		
	思わない	167		
	思っていない	69		
相関比(r)		0.582	サンプル数 388	

注)1～7の心がけは図1参照

5. 結論

学生の交通事故対策上、今後の交通安全講習会の在り方としては、特に強い雨の日や深夜の運転、駐車違反、長時間の連続運転の行為に対する危険性を認識させることで、全体的な心がけを向上させる内容が望ましく、そのための形式としてはできるだけ少人数で行い、短く内容のある話で集中して聴いてもらうために外部の専門家を呼ぶ等が有効であるといえる。